

令和 3 年度に実施した研究課題評価の結果について

I 中間評価について

1 評価対象

評価実施年度（R 3）に予算計上している継続研究課題。
ただし、研究開始年度及び終了年度にあるものは除く。

2 評価の目的

これまでの進捗状況や目標達成可能性、研究を取り巻く状況の変化等の観点から、引き続き研究を続けることの適否を判断するための有用な情報を提供する。

3 評価方法

(1) 内部評価委員会による評価を実施。

研究開始から奇数年度はヒアリング形式、偶数年度は書面形式により行う。

(2) 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
必要性	ニーズの状況変化 (A、B、C、D)	政策の転換や産業界・県民生活におけるニーズの変化等、研究を取り巻く状況の変化をみる。
有効性	研究開発効果 (A、B、C、D)	最終目標に到達した場合に、研究の成果が本県産業の振興や県民生活の向上に十分に貢献できるかをみる。
目標達成可能性	進捗状況 (A、B、C、D)	研究計画に従って着実に実施しているか評価時までの研究開発の進捗状況をみる。
	目標達成阻害要因の状況 (A、B、C、D)	技術水準、これまでの研究成果、他の研究主体の研究動向等より、目標達成を阻害する要因の状況をみる。
総合評価 (A、B+、B、C、D)		次年度以降引き続き実施すべきか、また実施する場合の優先度を判断する。

4 総合評価の結果

評価結果		判定基準	課題数
A	当初計画より大きな成果が期待できる	全ての評価項目が A 評価である課題	該当なし
B+	当初計画より成果が期待できる	各評価項目が B 評価以上であり、A 評価が 2 つ又は 3 つの課題	9 課題
B	当初計画どおりの成果が期待できる	各評価項目が B 評価以上である課題 (A、B+評価の課題を除く)	14 課題
C	さらなる努力が必要である	いずれかの評価項目で C 評価がある課題 (D 評価の課題を除く)	該当なし
D	継続する意義は低い	いずれかの評価項目で D 評価がある課題	該当なし
合計			23 課題

5 評価結果一覧

評価基準日 令和3年4月1日

No	研究機関名	課 題 名	事業年度	ヒアリング実施	ニーズの状況変化	効果	進捗状況	目標達成阻害要因の状況	総合評価	資料
1	総合食品研究センター	微細気泡を利用した新食感食品の開発と応用	R2 ～ R4		B	B	B	B	B	資料4
2	農業試験場	秋田ブランドを確立する花き新品種育成	H30 ～ R4		A	B	B	B	B	資料4
3	農業試験場	第5期次世代銘柄米品種の開発	R1 ～ R5		B	B	B	B	B	資料4
4	農業試験場	野菜の競争力強化を目指した新栽培技術の開発	R1 ～ R5	○	A	B	A	A	B+	資料4
5	農業試験場	先端技術を活用した新たな園芸作物病害虫防除技術の確立	R1 ～ R5	○	A	B	B	A	B+	資料4
6	農業試験場	花きの市場競争力強化を目指した新栽培技術の開発	R2 ～ R6		A	A	B	A	B+	資料4
7	農業試験場	野菜オリジナル品種の育成と親系統等の増殖	R2 ～ R6		B	B	B	B	B	資料4
8	果樹試験場	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜	H28 ～ R7		B	B	B	B	B	資料4
9	果樹試験場	ニホンナシ黒星病の総合防除法の確立	R2 ～ R4		B	B	B	B	B	資料4
10	果樹試験場	多雪地帯におけるリンゴジョイント栽培の生産性および耐雪性評価	R2 ～ R6		A	B	B	B	B	資料4
11	畜産試験場	牛肉におけるモモの脂肪交雑を改善する肥育技術の開発	R1 ～ R5	○	B	A	B	A	B+	資料4
12	水産振興センター	ハタハタの資源変動と漁場形成に関する研究	R1 ～ R5	○	A	B	B	B	B	資料4
13	水産振興センター	湖沼河川における水産資源の安定化と活用に関する研究	R1 ～ R5	○	B	B	B	B	B	資料3
14	水産振興センター	漁業・流通支援システムの構築に関する研究	R2 ～ R6		A	A	B	B	B+	資料4
15	水産振興センター	種苗生産・放流技術の高度化に関する研究	R2 ～ R6		A	B	B	B	B	資料4
16	水産振興センター	内水面重要魚種の増殖技術の高度化に関する研究	R2 ～ R6		A	B	B	A	B+	資料4
17	林業研究研修センター	ニホンジカの個体数を制御するための生息環境の解明	H30 ～ R4		A	B	B	A	B+	資料4
18	林業研究研修センター	菌床シイタケのスマート栽培技術の開発	R1 ～ R5	○	A	B	B	A	B+	資料4
19	林業研究研修センター	秋田スギの低密度植栽に対応した新施業体系の確立	R2 ～ R6		A	A	B	A	B+	資料4
20	産業技術センター	電解砥粒制御技術を用いた新たな切断技術の開発	H30 ～ R4		B	B	B	B	B	資料4
21	産業技術センター	人工知能とVR技術の融合によるインテリジェント検査システムの開発	R2 ～ R4		B	B	B	B	B	資料4
22	産業技術センター	フィラー高充填樹脂コンポジットの精密成形技術の開発	R2 ～ R4		B	B	B	B	B	資料4
23	産業技術センター	導電性を持つ次世代型多機能セラミックスの開発	R2 ～ R4		B	B	B	B	B	資料4

Ⅱ 事後評価について

1 評価対象

評価実施年度の前年度（R 2）に研究期間が終了した研究課題。

2 評価の目的

最終到達目標の達成度、研究成果の効果の観点から研究結果を評価し、次期研究計画の策定等に活用する。

3 評価方法

(1) 内部評価委員会による評価を実施。

原則としてヒアリングにより実施。研究が、類似の研究課題に継続される場合は書面により実施。

(2) 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
目標達成	最終到達目標の達成度 (A、B、C)	研究計画で設定した最終到達目標の達成状況を見る。
有効性	研究成果の効果 (A、B、C、D)	研究成果の受益対象者の設定、成果の活用方法を踏まえ、研究成果の効果を評価する。
総合評価 (S、A、B、C、D)		最終到達目標の達成度、研究成果の効果から研究課題を総合的に評価する。

4 総合評価の結果

評価結果		判定基準	課題数
S	当初見込みを上回る成果	2つの評価項目がともにAの課題のうち特に優れる課題	3課題
A	当初見込みをやや上回る成果	2つの評価項目がともにAの課題（S評価に該当する課題を除く）	3課題
B	当初見込みどおりの成果	2つの評価項目ともB以上の課題（S、A評価の課題を除く）又は2つの評価項目がAとCの課題	10課題
C	当初見込みをやや下回る成果	2つの評価項目がともに又はいずれかがC以下の課題（B、D評価の課題を除く）	該当なし
D	当初見込みを下回る成果	2つの評価項目がCとDの課題	該当なし
合計			16課題

5 評価結果一覧

評価基準日 令和3年4月1日

No	研究機関名	課 題 名	事業年度	ヒアリング 実施	目 標 達成度	効果	総合 評価	資料
1	総合食品研究センター	酒造工程の微生物を制御することによる日本酒の 高品質化技術	H30 ～ R2	○	A	A	A	資料5
2	総合食品研究センター	いぶりがっこの効率的生産方法の確立と原料ダ イコンの加工適性解明	H30 ～ R2	○	B	B	B	資料5
3	総合食品研究センター	新規コメ発酵素材(調味料)の開発・応用と機能性	H30 ～ R2	○	B	B	B	資料5
4	健康環境センター	新規食中毒原因菌エシェリキア・アルバーティー の迅速検出法の検討と感染源の解明	H30 ～ R2	○	A	A	S	資料5
5	農業試験場	米生産の多様化に対応した省力・低コスト水稻病 害虫防除技術の確立	R28 ～ R2	○	A	B	B	資料5
6	農業試験場	大規模経営体の園芸部門における労働力確保条 件に関する研究	R30 ～ R2	○	B	B	B	資料5
7	果樹試験場	ナシ・ブドウ・モモ・その他果樹の育成系統及び新 品種の適応性検定試験(第4次)	H23 ～ R2	○	B	B	B	資料5
8	果樹試験場	リンゴの収穫果および貯蔵果に生じる黒斑症状 の原因解明と防除法の確立	H30 ～ R2	○	A	A	S	資料3
9	畜産試験場	比内地鶏の飼料体系の確立および品質の安定 化に関する研究	H29 ～ R2	○	A	B	B	資料5
10	畜産試験場	比内地鶏の行動特性を応用した生産方法の開発	H30 ～ R2	○	B	B	B	資料5
11	林業研究研修センター	海岸防災林の低コスト造成手法の開発	H28 ～ R2	○	A	B	B	資料5
12	林業研究研修センター	初期成長に優れたスギ次世代精英樹の開発	H28 ～ R2	○	A	A	S	資料5
13	林業研究研修センター	マツタケ等菌根性キノコの生産・増産技術の開発	R28 ～ R2	○	B	B	B	資料5
14	産業技術センター	新規電磁場センシング・ワイヤレス給電技術の研 究開発	R28 ～ R2	○	A	A	A	資料5
15	産業技術センター	自動車用複雑形状部品のための熱変形レスレー ザー焼入れ技術に関する研究	H30 ～ R2	○	A	B	B	資料5
16	産業技術センター	IoT・AIを活用した生産工程のスマート化に関する 研究	H30 ～ R2		A	A	A	資料5

(参考) 令和3年度研究課題評価内部評価委員会委員名簿

機関名	評価委員会 開催日	評価委員の所属・職名	氏 名
総合 食品研究 センター	6月3日(木)	秋田うまいもの販売課 課長 総合食品研究センター 所長 総合食品研究センター 企画管理室長 総合食品研究センター 食品加工研究所長 総合食品研究センター 醸造試験場長	柴田 靖 大友 義一 渡辺 美伸 渡辺 隆幸 進藤 昌
健康環境 センター	6月11日(金)	生活環境部参事(兼)環境管理課長 生活環境部参事(兼)生活衛生課長 健康環境センター 所長 健康環境センター 企画管理室長	古井 正隆 庄司 浩久 鈴木 嘉司憲 大門 洋
農業 試験場	6月4日(金)	農林政策課 政策監 水田総合利用課 課長 園芸振興課 課長 農業試験場 場長 農業試験場 企画経営室 室長	佐藤 大祐 草薨 郁雄 黒澤 正弘 佐藤 孝夫 奥山 政通
果樹 試験場	6月4日(金)	農林政策課 政策監 園芸振興課 課長 果樹試験場 場長 果樹試験場 総務企画室長	佐藤 大祐 黒澤 正弘 上田 仁悦 瀬田川 守
畜産 試験場	6月4日(金)	農林政策課 スマート農業推進監 畜産振興課 課長 畜産試験場 場長 畜産試験場 総務企画室長	川原谷 実 畠山 英男 長谷部 毅 西宮 弘
水産振興 センター	6月4日(金)	農林政策課 政策監 水産漁港課 課長 水産振興センター 所長 水産振興センター 総務企画室 室長	佐藤 大祐 大山 泰 阿部 喜孝 水谷 寿
林業 研究研修 センター	6月4日(金)	林業研究研修センター 所長 農林政策課 スマート農業推進監 林業木材産業課 課長 森林整備課 課長 園芸振興課 課長 自然保護課 課長	戸部 信彦 川原谷 実 清水 譲 三森 道哉 黒澤 正弘 澤田 智志
産業技術 センター	6月7日(月)	産業技術センター 所長 産業技術センター 上級主席研究員(兼)部長 産業技術センター 上級主席研究員(兼)部長 産業技術センター 電子光応用開発部 部長 産業技術センター 先端機能素子開発部 部長 産業技術センター 素形材開発部 部長 地域産業振興課 産学連携班 班長	佐藤 明 遠田 幸生 鈴木 淑男 近藤 康夫 梁瀬 智 工藤 素 根田 好倫